

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0592200042		
法人名	有限会社シャトル		
事業所名	グループホームことおか		
所在地	秋田県山本郡三種町鹿渡字千刈田255-1		
自己評価作成日	平成27年10月21日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>施設横の芝生を車椅子でも散歩できるように整備。より畑作物や季節を楽しめるようにした。利用者には今出来ることを個別の取り組みとして重要視し、毎日の趣味の時間としている。1日1回の散歩の時間やレクリエーションでの体力維持を図っている。訪問看護・医療機関との連絡も充実し、健康管理に力を入れている。</p>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成27年11月22日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>日中、全ての居室の戸が明け放されていることに、まずは驚かされる。居室に職員が入る際は必ず了解を得てきた信頼感からか、あるいは多彩なレクリエーションの効果か、職員の持ち味を引き出し業務に反映させる事が、入居者との信頼関係につながり利用者の明るい表情を上手に引き出している。ホームからの詳細な報告を踏まえ、中身の充実した運営推進会議に発展している。利用者が工作したお供え用彼岸花を各家族・退居した家族・クリーニング店・床屋等々、お世話になっている方全てに2本1組にして届けており、非常に好評とのこと。全利用者の介護計画援助方針の上位に「当ホーム基本理念」が記載されており、理念を実現するための介護計画であることを改めて認識させられた思いがした。グループホーム本来の社会的役割を認識し、多彩な取り組みをしている開放的な明るいホームである。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念には事業所の全ての想いが詰まっている。職員会議等で理念に沿っているか、振り返りの時間をつくっている。	設立当初の理念がホールや事務所に掲げられている他、利用者が手書きしたものも事務所の壁に確認できた。全職員が年度毎に理念を具体化した個別目標を定め、2ヶ月に一度職員会議で輪番で進捗状況を報告している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年恒例の夏祭りや文化祭、自社3施設の行事にて地域住民との交流を図っている。近年はクリスマス行事として子供達のボランティアもあり、交流を深めている。	秋田漫才・唄と踊り等々、地域ボランティアとの交流が盛んである。保育園児がお遊戯会の再発表に来訪している他、同系列のショートステイ・グループホーム間で招待し合ったり、他法人の夏祭りにも利用者と共に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	来訪者には、ホームでの日常生活や支援の説明をしている。また、認知症サポーター講習を職員全員が受け、地域への貢献を目指している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の健康状況・活動報告により、参加者からの理解を得ている実感がある。貴重な意見は次の支援に活かしている。	ホームからの詳細な報告を踏まえ、中身の充実した運営推進会議に発展している。駐在所から2人訪問し、「オレオレ詐欺防止や夜間の反射シールの活用」について、ホームを会場に話してくれるきっかけにつながったり、地域包括支援センターから様々な情報を伝達いただいたりしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて、情報の交換ができています。これからも、より良好な協力関係を築いていきたい。	町の指導監査で、民家から遠いという立地条件を考慮し、地域の消防団に応援依頼するようとの貴重なアドバイスがあった。今後早速依頼に訪れ、ホームの理解促進につなげたいとのこと。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間(21:00~6:00)以外の施錠はせず、外出したい利用者には職員が同行し、思いのまま散歩を楽しんでもらっている。 身体拘束について、職員の理解は浸透している。	社内共有の「身体拘束等行動制限についての取り扱い要綱」が整備され、研修を通じ全職員に周知されている。身体拘束をしないケアに取り組んでおり、対象となる利用者はいない。	要綱や指針等の一部に、設定や改定の日付の無いものがあるので、確認し記載するよう期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の勉強会の中で、虐待に関する資料を基に学んでいる。また、職員がお互いに注意し合える環境作りにも努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関係機関や支援員との交流には力を入れている。ホーム全員が支援員の訪問を楽しみにしており、良好な関係がある。制度の理解には研修資料など活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書類に沿い、十分な説明をし、改定時は書類送付の他に面会時や電話時に疑問等ないか再確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話や面会時のお話しの中から、意見・要望をすくい上げ、業務日誌・会議等で情報の共有化を図っている。また、運営推進会議で外部へも情報発信している。利用者とは毎日の会話から要望など掘り出し、それに応えている。	体調等わずかな変化でも即家族へ連絡し、記録することが習慣化している。「バナナが食べたい等の些細な要望にも迅速に対応することが、互いに心を開いた関係性の構築につながる」との管理者の言葉が印象的である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議には、代表者や施設長の出席もあり、意見や要望に触れる機会を設けている。施設長との個人面接も申し出により、いつでも可能な体制をとっている。	居室内の簡易物干しに捕まり転倒した利用者の居室に、職員のアイデアで大工さんから手の届く壁上部に物干し竿を作成したが、今では全居室に採用している。夏の暑さに対応するため、日よけテントを2張要望し、職員が品名や値段を詳細に調べ必要性を強調し、購入が実現した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を活用し個人→管理者→施設長と評価し合い給与に反映させ、定期異動や希望による異動後も本人の状況把握に努めている。代表者・施設長も参加しての親睦会での交流も職員の楽しみの1つである。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験や立場、また希望に添った研修が受けられるように年間研修計画を立てている。また、内部研修もその都度職員の希望や時季にあった内容を盛り込み全員参加で実施している。外部研修後は、レポートや勉強会などで伝達。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流後は自社4施設での情報を共有するようにしている。また、同業者が出席する会議にも積極的に参加し、職員にも報告、サービスの質の向上を目指している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や関係機関からの情報を得て、事前訪問。見学時には利用者との交流を図ったり、十分な話し合いの中で安心して頂けるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	一方的にならないよう家族の想いを受け入れ不安の軽減に努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	得意分野で力を借りており、畑の種まき・収穫、季節のメニュー作りなど話し合っている。また、職員の悩みなど打ち明け相談にのってもらうこともある。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りには、直前の利用者の様子など個々に報告、面会時はより関係が深まるように、また長く保持できるように支援している。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が一番楽しみにしているドライブは自宅周辺を通るようにして道順を決めている。自分達で作った創作物を知人に届けたり墓を巡ったりと馴染みの関係継続を支援している。	利用者が工作したお供え用彼岸花を各家族・退居した家族・クリーニング店・床屋等々、お世話になっている方全てに2本1組にして届けており、非常に好評とのこと。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者全員がホールでの時間を楽しんでおり、その関係は良好である。個性を見極め、意向に添った席決めなど、孤立することのないよう気配りは怠らないようにしている。		
21		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も誕生日には電話を入れたり、入院先に見舞ったりしている。 毎年制作している彼岸花を届け、家族の健康を伺っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族との面会時の会話から、また入浴や夜間の何気ない対話の中での心の言葉を探り、職員会議やカンファレンスで検討、本人の立場に立ったプランの作成に努めている。	「夜勤帯の利用者と1対1になれる時が利用者の心の言葉を把握できるチャンス。触れ合わないとわからない。いかにして心を開いてくれるか、いろんな話をして、昔の思いを引き出すこと」と、熱く伝えてくれた。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴は特に重要視しており、家族・関係者からは常に情報を得られるようにしている。本人の生きがい、張り合いは生活の中での会話から見出すようにして接している。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	少しの変化でも申し送りにて職員に情報提供、1日の過ごし方に目配りを怠らないようにし、体調変化の把握に努めている。体調低下ありの時は即時対応に努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者担当職員を決め、個々のケアにより目が届くようにしている。本人や家族等関係者も含め、情報を出し合い現状優先の介護計画を作成している。	全利用者の介護計画援助方針の上限に「当ホーム基本理念」が記載されており、理念を実現するための介護計画であることを改めて認識させられた。ケアマネージャーが記入した課題について、まずはケース担当者がコメントし、その後全職員で検討している。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その人の発した言葉など、そのまま記録に残した介護記録、1日の様子を業務日誌に残し、実践→結果→工夫なども記録に残している。その情報は介護計画見直しに活用している。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	情報提供し駐在所との交流も可能になり、地域ボランティアさんは(近所)ホームに花で季節を届けてくれる。町民祭には皆で制作した作品を提出、安全で楽しい生活を送れるよう支援。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の意向を優先した受診を行っており、地域の薬局から病院では知り得ない細かい情報も得る事が出来ている。	2週間に一度内科医が往診、歯科医は必要に応じ往診、月2回の訪問看護が利用者・家族の安心感につながっている。目と鼻の先にあるショートステイの看護師の存在が心強い。協力医療機関である内科医院の医師が、いつでも駆けつけてくれる関係を構築している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	今年度から訪問看護も取り入れ、更に医療面での充実が図れるようになった。隣接施設の看護師との情報も交換しており、週2回の往診と合わせて安心して生活できるよう環境を整えている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院に際しては医療機関とは常に緊密な連絡をとり、相談にのってもらっている。本人家族の意向・不安を含め医療機関との関係は、常に良好な関係を保つよう努力している。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	面会時やことあるごとに、家族とは重度化や終末期のことを話題にしている。重度化した場合における指針を作成し、医療連携体制も整え、今後の支援に活かすよう努めている。	前回の目標達成計画を踏まえ、医師・施設長・ホーム職員等で十分検討し「重度化した場合における(看取り)指針」を新規作成し、整備されていることが確認できた。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故発生に備え、目の届く所にマニュアルを常備、初期対応は勉強会などで訓練している。隣接しているショートステイには、AEDの設置もあり応急救置可能となっている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	立地条件により近隣の協力が得られないが、本社建設会社が近くにあることで社員の協力体制が取れるようになった。夜間の避難訓練も実施しており、非常時の備えも完備している。	前回の外部評価調査員からのアドバイスを参考に、近隣の建設会社に要請し、緊急連絡網に社員の自宅を加えるに至った。ホームの避難訓練には社員2人の参加協力を得ている。今後、地区自治会長や消防団への協力要請を考えている。	地区住民に対して、ホームの避難対策への理解促進や消防団への協力要請に向けた働きかけに期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	優しい言葉・笑顔は理念に掲げているが、日々のさりげない言葉、ふれあいの中での思いやりの言葉で尊重・誇り・プライバシーは損ねない対応が出来ていると思う。	昼食後、得意とする歌を披露してくれたが、恥ずかしがる利用者へ、個々の特性に応じ巧みに声掛けし誘導することが、結果的に利用者の笑顔を引き出すことにつながっていた。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉に出せない、自己決定が出来ないなどあるが、会話の中から想いを引き出すようにしている。日常生活の信頼関係からゆったりと待つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	在宅時等の1日の流れの情報を基にした生活になるようにし、希望があれば添うように時間を配分、支援している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	買物には本人と同行し、好みの物を買えるように、また家族の意向も取り入れながら支援している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑の野菜の成長を楽しみながら食事に取り入れ、食べ慣れた郷土料理を共に作る。好みの食材をメニューに加え、楽しい食事になるよう努めている。中庭にてランチも楽しんでいる。 食器拭き、おぼん拭きのお手伝いの協力もしてもらっている。	利用者と共に丸めた「だまこ鍋」が当日の昼のメニュー。書字の得意な利用者が手書きしたメニューが廊下の壁に大きな字で掲示されている。 職員も同じ食卓につき、我々調査員と利用者の会話が弾むよう会話を引き出してくれた。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量・水分量が一目でわかるように記録している。 体調の状況に合わせて、隣接する施設の栄養士のアドバイスをもらったり、栄養補助食品の準備もしている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人の力に合わせて見守りや声掛け、一部・全介助と毎食後に行っている。舌苔の観察も行い必要な方には歯ブラシと舌苔用のブラシを使用。毎日夕食後の義歯や口腔ケア用品の洗浄も行っている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの力に応じて日中と夜間の綿パンツとリハビリパンツを替えたり、さりげない言葉かけでのトイレ誘導でプライバシーに配慮しながら自立支援を目指している。	チェック表を利用者から少し離れたいつでも手に取りやすい位置に置いて、常時記入できるよう工夫している。「排泄は利用者のその日の感情とつながっており、重要な情報」との管理者の言葉が印象的である。風邪で起き上がれない状況以外は極力おむつを使用しない取り組みを実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の排泄記録でパターンを把握し、食事や水分補給の工夫、運動やレクリエーションでの体操などで自然な排泄が出来るように支援している。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	健康状態・体調に合わせてたり、希望によりいつでも入浴可能な状態をとっている。入浴剤の色や香りでも変化をつけたりと気分転換を図っている。	みかんの皮を干して浮かばせたり、入浴剤の種類を変える工夫をしている。週に3回、9:30～夕食まで入浴可能で、順番は希望により日々異なるとのこと。利用者の希望に添えるよう、常に入浴介助の準備をしておくよう職員に周知している。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせた日中の活動やレクリエーション、歩行を取り入れ、夜間の快眠が得られるように支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の処方内容が確認できるようにリストを作り、介護記録にファイルしており、疑問点などは主治医や訪問看護師に連絡を取っている。変更時はすみやかに記録内容を更新し申し送り職員に周知、症状変化も見逃さないように努めている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別の取り組みをすることで新しい発見がある。出来る力を活かした役割で生活に張りを見出し、それが楽しみに変わるような支援をしている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「ちょっと外へ出たい」などの発言があれば個々に、またその発言により皆様と話がまとまり、恒例のおまかせドライブに発展して楽しんでいる。家族の協力も得ながら外出できるよう支援している。	道路を隔てた広い駐車スペースの奥に独自の東屋を設置しており、利用者にとっては程よい散歩コース。お茶やおやつを持参して楽しむとのこと。中庭の芝生を車椅子でも楽に利用できるカラフルなレンガ敷きに改装し、大いに活用している。天気が良ければ社内の車を駆使して、思い立ったら即出かけられる体制にある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に同行した際や受診時は、ホームで準備したお金を本人に支払ってもらうようにしている。好きな物を選び買う楽しさを味わってもらうよう支援している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状・暑中見舞いなど恒例としている。本人の力に合わせ、絵柄を作りメッセージを入れる。担当職員と協力して思いを込めている。希望での電話も対応している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度の調整、換気に配慮。1日3回のこまめな掃除により清潔に保つようになっている。共同する空間には季節感を出した壁飾り(利用者・職員共同作品)や花で心地よく過ごしていただけるように工夫している。	ホームを訪れると何とも言えない不思議な温かさを感じる。手作りの装飾の一つひとつに心を込めているとのこと。日々の創作活動から生まれた作品だが、利用者が参加できるよう様々な工夫の結果とのこと。鉢植えもホームのあちこちに生き生きと存在し、「私の手にかかるとう元気になるの」という職員の存在。「私は様々な趣味を持った職員に恵まれている」との管理者の弁。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ほとんどの利用者がホールでの時間を楽しんでいる、会話を楽しんだり趣味の作業をしたりと本人の思いに添うようにしている。また、トラブルが無いようにも目配りしている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のこだわりの品や思い出の物など、自分の家を手想定して居室をまとめており、居心地のよい生活空間になるよう工夫している。	全ての居室の戸が開いている。居室に職員が入る際は必ず了解を得てきたためか、職員に対する信頼感からか、あるいはレクリエーションの効果か。利用者の表情が明るく開放的であり、結果、自然に居室の戸が日中は開け放されている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動の手助けとなる手すり、トイレ内の安全・安心できる手すりやコール、車いすに適したスペースなどに配慮。大きな文字の表示などで自立した生活が送れるようにしている。		